

実線研究課題

特別支援学校における地震防災管理の質的改善を目的とした 教員研修の工夫

共同研究代表者：此松昌彦（和歌山大学教育学部）

共同研究者：鶴岡尚子・入學遼治・清水祐野・一ツ田啓之（和歌山大学教育学部附属特別支援学校）

1. 目的

和歌山県内では、今世紀中に南海トラフ地震や津波の発生が心配されている。また最近の異常気象によって大規模な台風や集中豪雨などが発生し、河川の氾濫、土砂災害なども心配されるようになってきた。そのような背景のもと、教員には災害時に児童生徒の命を守るため、平常時より防災意識を高め、安全を確保するための技術の向上や判断力を養っておくことが求められる。県内の学校においては、防災教育を行っている学校が増えているが、学校種に応じて状況は違う。

ここでは昨年に引き続き、特別支援学校での防災教育について進めていくなかで、保護者の防災意識について調査し、どのような不安をもっているのかなど課題について検討した。教師も保護者の課題について知っておくことは、教員研修プログラムを開発するためにも重要なポイントになるためである。

2. 研究方法

特別支援学校の保護者向け防災研修会を開催し、東日本大震災での特別支援学校やその児童・生徒の状況について説明を行いながらコミュニケーションをとり、課題を抽出した。また参加した児童・生徒の保護者に対して、申し込み時に防災の関心事、今年の台風での停電したことでの課題を質問したアンケートや参加後に防災意識アンケート調査を行い、意識や課題について検討した。

アンケートは以下のように以下のような項目で質問した。

(1) 参加申し込み時

- ①保護者の方が、防災について関心のある内容は、どのようなものですか。
- ②今年の台風による停電を経験された方で、その時に困ったことや、その時とった対処法、その時のお子様の様子等を教えてください。

(2) 研修会後の参加者アンケート

①あなた自身や周りの環境についてお聞きします。

1 現在あなたが住んでいる地域では、どのような災害が発生すると思いますか。（複数回答可）以後、選択肢は省略し、結果参照下さい。

②家庭での防災対策についてお聞きします。

1 あなたの家では、地震などの災害に備え、食料や医薬品などを備えていますか。

2 あなたの家では自身が起こった時に、たんす・棚・冷蔵庫などの転倒防止をしていますか。

上の質問で、「3. していない」と答えた方は、その理由を教えてください。

3 家族と、地震などの災害について話し合うことがありますか。

4 家庭で災害の際の避難方法、連絡の取り方について話し合っていますか。

③地震などの災害、備えに関して、日ごろから感じていること・考えていることを自由にご記入下さい。

④学校での防災教育の内容や防災対策について、良い考えや改善すべき点、アイデア等があれば自由にご記入下さい。

3. 結果

(1) 保護者向け防災研修会

令和元年11月1日(金)の午後に附属特別支援学校において保護者向け防災研修会を開催した。

申し込み人数は7名で、当日参加者は8名でした。

研修会では保護者に対して此松が一般的な防災対策を説明した。その時の一部のスライドを図1に示した。

ここでは防災教育のキーワードとして、自然理解、想像力、対応能力を示し、避難行動である対応能力を高めるためには、想像力として自分が遭遇する災害をどれだけイメージできるか、さらに想像力を高めるために災害や地震、津波のメカニズムに知っておく必要があることを説明した。またとっさの避難行動だけでなく、被災をできるだけ小さくするためには事前の準備としての備えも必要である。そのために家族防災会議として家庭で、事前に話し合いをしておくことが重要であることを示した。具体的に連絡方法、どこに避難するのかなどである。

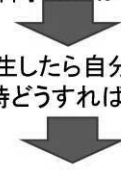
防災対策、できていますか 災害時の対応と課題を考える

教育学部
此松昌彦

1

防災教育のキーワード

- **自然理解**
自然現象とはどのような仕組みで、なぜ発生するのかという自然科学教育からの取り組み
- **想像力**
大きな災害が発生したら自分や家族に何が起こるだろうか、その時どうすればよいのか想像する力の育成
- **対応能力**
発生する自然現象に応じて、適切な対応をとる能力を育てる安全教育からの取り組み



3

話し合うテーマ

- 家族がバラバラの時に被災した場合の連絡方法(どこに?どの様に?)
A:
- 外出していた時に被災した場合、どうするか(どこに帰るの?)
A:

9

想定されること

- 子供は学校、遊び先で被災
- 大人は職場で被災
- 帰宅途中で被災して帰宅困難になる
- 通信手段がなく、互いに連絡をとることが困難になる
- 地震が日中に発生した場合、家族が離ればなれの状態になる事が考えられます。

<http://j-jis.com/bousai/family.shtml>

話し合うテーマ

- 対策は一つではなく、第二候補までであるとあらゆる状況に対応できます。
- 家族がバラバラの時連絡方法。
合流場所 (避難場所)と合流方法
- 家族が一緒の時
避難場所と道順。役割の分担 (家族の安否確認、非常持ち出し品の準備、避難経路の確保、近所の救助活動)
- 共通のテーマ
乳幼児・高齢者・病人・妊婦・ペットのいる家庭での避難について

<http://j-jis.com/bousai/family.shtml>

風水害(台風、大雨など)への備え

- 台風が近づいてきたら(強風対策)
- 台風情報を収集
- 大雨が降り始めたら(大雨対策)
- 気象情報の収集
- 降雨情報や河川水位情報
- 床上浸水の恐れ→大切なもの2階

21

地震発生から3日目までの行動

- 命を守る時間帯 地震発生0分~2分
自分の身を守る
- 二次災害を防ぐ時間帯
地震直後2分~5分 火の始末 出口の確保
5分~10分 我が家の安全確認
- まちを守る時間帯 10分~半日
隣近所の安否確認と助け合い 避難場所へ
- 生活を守る時間帯 半日~3日
2~3日自分でしのぐ 避難所へ
- 復旧・復興へ 3日以降
本格的な復旧開始

23

東日本大震災における 災害応急体制の課題

- 避難所運営・管理
避難所運営において時々のニーズに応じた各種支援・サービスが十分でなかった。
- 女性や災害時要援護者への配慮
男女共同参画、障がい者、高齢者等への配慮が不足した。

内閣府(防災担当)平成24年

図1 研修会で講演したスライドの一部

最近に増えてきた風水害への備え、地震への備えについても説明し、被災後の避難所についても開設した。特に最近では東日本大震災の反省に立って、要援護者への配慮という観点が増えてきている。ただし特別支援学校の児童・生徒だけを配慮している避難所はまだ無いようであり、家族によっては他人に迷惑をかけたくないということで、自家用車で寝泊まりしていた家族もあった事例を示した。

(2) アンケート結果

事前

① 保護者の方が、防災について関心のある内容は、どのようなものですか。

- 1.地震によって起こる災害（津波、火事など）・・・4人
- 1.災害発生直後に身を守るために取るべき行動・・・6人
- 3.災害発生の後、避難所に入るまでに取るべき行動・・・5人
4. 避難所での生活・・・4人 5. 非常食の備蓄・・・4人
6. 家具転倒防止の方法・・・3人
7. 災害発生時の避難場所、避難方法・・・3人
8. 実際の体験談を聞く・3人 9. その他（記入なし）

②昨年の台風による停電を経験された方で、その時に困ったことや、その時とった対処法、その時のお子様の様子等を教えてください。

- ・ 実家はその日の内に電気が通りましたが、自分の家はさらに次の日の夕方でした。お風呂にも入れず、みんなで温泉に行きましたが、電気のありがたみを感じました。私はIH希望ですが、主人はガスの方が良いと言うので、いまだにガスですが、今回ガスだったため、調理はできました。主人からは、「良かったやろ」と言われましたが。
- ・ モバイルバッテリーを充電していなくて困った。
- ・ 運よく、父親が自宅待機で一緒にいられたので、子供一人で留守番にすることがなく済んだのでよかった。本人も平気そうにしていたので…。
電気がとまると、ガスも水道もアウトになるので、数時間で済んだ前回はなんとかなったが、長時間、数日となると…と考えると、おそろしいです。

事後アンケート結果 6名

①あなた自身や周りの環境についてお聞きします。

1 現在あなたが住んでいる地域では、どのような災害が発生すると思いますか。（複数回答可）

1. 山崩れ・・・1人 2.地滑り・・・0人 3. 崖崩れ・・・0人 4. 洪水・浸水・・・6人 5. 地盤沈下・・・0人 6. 津波・・・2人 7. 住んでいる家の倒壊・・・2人 8. 発生しない・・・0人 9. わからない・・・1人 10. その他（ ）・・・0人

②家庭での防災対策についてお聞きします。

1 あなたの家では、地震などの災害に備え、食料や医薬品などを備えていますか。

1. 備えている・・・4名 2. 備えていない・・・2名

2 あなたの家では自身が起こった時に、たんす・棚・冷蔵庫などの転倒防止をしていますか。

1. している・・・0人 2. しているものもある・・・4人 3. していない・・・2人

上の質問で、「3. していない」と答えた方は、その理由を教えてください。

1. お金がかかるから・・・2人 2. 面倒だから・・・1人 3. そのような重い物は安定しているの
で倒れる心配はないから・・・0人 4. 地震が起こってもすぐにテーブル等の下に隠れればよいから・・・0人 5. 自分の周りでは地震などの災害は起こらないから・・・0人 6. その他（ ）・・・0人 複数回答あり
- 3 家族と、地震などの災害について話し合うことがありますか。

1. ある・・・0人 2. たまにあ・・・4人 3. ほとんどない・・・0人 4. 全くない・・・0人
4 家庭で災害の際の避難方法、連絡の取り方について話し合っていますか。

1. はい・・・5人 2. いいえ・・・1人

③地震などの災害、備えに関して、日ごろから感じていること・考えていることを自由にご記入下さい。

・やらなければと思いつつ日々のことで手いっぱい
で備えまでできていないです。

・避難生活の大変さに思いを巡らせます。子供と一緒に体験や学べる機会があればいいなと思います。

・今回のお話の中で、シートや簡易トイレ、スリッパなども備えておくべきだなと・・・

④学校での防災教育の内容や防災対策について、良い考えや改善すべき点、アイデア等があれば自由にご記入下さい。

・有志で（卒業生も含めて）避難所体験ができるとうれしいです。場所は、学校で！

4. 考察

保護者とのコミュニケーションをとるとあまり普段から防災をあまり考えていない方、意識を持っている方に分かれているようだ。特に今回に防災の研修会に参加していただいた方は、それでも基本的に意識は持っている方だと考えられる。むしろ参加していなく、災害対応に関心を持っておらず、いざという時に何をしたら良いのか判断できない方も多くいると推察される。

今後の災害対応について学校と保護者をもっとコミュニケーションをとるプログラムが必要だと考えられる。例えば要望にあるような避難所運営ゲームのHUGや避難所体験なども必要だろう。避難所にはどのような課題があるのかをイメージできる。少しでも大規模災害時へのリスク軽減に繋がるであろう。